

水・緑を守る

コリンズカントリークラブ

コリンズの造成工事の設計が危険であること・山を崩すことで、下流の人々に水害の被害を受ける率が高いこと等、議会で主張してきました。コリンズに金がないこと、訴訟をおこしていることもあって、造成事業は、手つかずです。町長は、県に対して、コリンズの資力信用を調査するよう要望書を提出しました。コリンズの資力が造成工事、今後の営業にたえうると県が保障できない限り、ゴルフ場工事は始まりません。幸いなことに山を崩していないのですから、県はゴルフ場開発許可を取消して、町は、コリンズ計画地を、買う・借りるなどして、町の森として、森林保全すべきだと考えます。今後の大きな課題です。



河川改修

都幾川の大規模河川改修が行われています。川幅を広げ、川の斜面を芝地に、人間が遊べるようにしています。都幾川にはイカルチドリという、川の石を保護色にして、川原の石に巣をつくる野鳥が生息しているのですが、この工事で殆ど生息しなくなりました。県の都幾川河川拡幅事業は、都幾川・楳川の合流地点二瀬にある嵐山町町営水道の第2水源井戸まで、つ



ぶす予定です。嵐山町は、第2水源に変わる井戸が見つかるまでは、井戸は県に頼らないといひます。県には、都幾川の上流にダムをつくる計画があります。ダム

つくることで土砂崩れなど危険が増えます。都幾川の流量は少なくなります。水は汚れます。県は、都幾川・楳川の合流地点二瀬で県営水道の水を取水することを計画。何のためのダムか。町営水道を県営水道に切り替える口実、単に公共工事を行うためのダムにすぎないのでは。むだな公共事業のための自然破壊に反対します。

子ども・大人・高齢者

小さい子供をかかえたお母さん達の手助けは。

嵐山町は、町の事業として、若草保育園で子育て支援事業をはじめています。子育てがはじめてのお母さんの手助け・相談窓口ができました。国が、少子化社会の対策事業としてはじめたエンゼルプランを、さっそく嵐山町が取り入れました。

町の学童保育への関わり方は

嵐山町には、学童保育所が、志賀小学校区、菅谷小学校区の2ヶ所にあります。七郷小学校区への学童保育の要望もあるのですが、具体的な要望となっていないため、七郷小学学童保育は誕生しそうもありません。学童保育は、町は、県の決定する学童保育補助金を、二つの学童保育所に交付するだけでした。昨年度から、年に2回、保健福祉課が、学童保育所の要望などを求めて、予算に反映する場を設けました。金だけだして、父母に運営のすべてをまかせるのではなく、施設、運営にも、町が、責任をもつ姿勢が見えてきました。



中学部活動の強制はやめよう。。

教育後進県といわれる埼玉は、なぜか部活動は盛んです。運動部が圧倒的に多く、文化部が極端に少ないのが嵐山町中学の特徴です。菅谷中学校に吹奏楽部をつくりたいという要望を、支援して、学校の閉鎖性に気がきました。教師が指導できなければ、子どもの望むサークルはつくれません。玉ノ岡中学では、今年は剣道を指導できる教師がいないため、1年生は剣道部に入部できませんでした。教師以外の大人を生涯学習の指導者として、部活動を行えばよいのですが、学校は教師以外の人間が子どもを、指導するのを拒みます。学校のみに関われる活動から、解き放たれた活動を。

高齢者福祉は急がなくてはならない課題です。

町の給食サービスは年30回です。これでは、役に立たない。ホームヘルプサービスは、利用していただく方に遠慮があるのか、事業が広がりません。。高齢になって、一人自宅で生活するのが不安でも、施設には入りたくない。巡回で、少しづつ、様子を見てもらえる24時間体制をつくらなくては。

